

ハリーナ. 2011; 2(13): 10.

## 水俣と日本の今 その1 水俣からご挨拶

原田利恵

4月から水俣に赴任したが、水俣の人たちの震災や原発事故への関心の高さに驚いた。水俣病患者も、石牟礼道子の言葉を借りれば「悶え神さん」になって心を痛めている。水俣には、水俣病の過酷な体験を経て思想的に非常に鍛えられた人たちがいる。また、全国からいろんな人たちが集まってくる。かつては「市民の敵」として排除された患者や、地元を「かき回す」と煙たがられた支援者の中には、今や地域社会のキーパーソンとして活躍している人たちがいて、その子弟が「第二世代」として、地域再生という文脈の中でネットワークを築きつつあることが注目される。